

2020年8月5日(水)第1水曜祈祷会

ルカの福音書14:25～35

「信仰者の覚悟」

■エルサレムに向かう道中

- ①大勢の群衆がイエスと一緒に歩いていた(つき従っていた)。
- ②群衆はイエスに期待していた(新しい王となってローマから独立を勝ち取ること)。

■イエスの弟子になるとは—1

- ①家族、兄弟、自分のいのちまでも憎むこと…「憎む」とは、憎しみをもって憎むことではない
- ②当時、「AよりもBを選ぶ」「AよりもBを優先する」という時、「私はAを憎む」と言い方をした。
- ③わたし(イエス)よりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません(マタイ10:37)

■イエスの弟子になるとは—2

- ①自分の十字架を負ってイエスに従っていくこと…「だれでも」「日々」負うもの(ルカ9:23)
- ②十字架とは…ローマの処刑法、イエスが歩まれた道、苦難(ピリピ3:10)、辱め(ヘブル13:13)
- ③イエスが全生涯を神の御旨にささげたように、神に自分を明け渡す者を求めておられる。

■イエスの弟子になるとは—3 (まず座って(思慮深く)考えよ)

- ①塔を建てる人は費用を前もって計算する → キリストの弟子になるには並々ならぬ覚悟がいる
- ②王として二万人の敵を一万人で迎え撃つ → その選択と決断には思慮深さが求められる
- ③自分の財産を捨てる覚悟 → イエスの弟子になる道に中間はない。天に宝を積む(12:33)

■もう一つのたとえ *『塩の契約』…永遠、不変の契約(民数記18:19、Ⅱ歴代誌13:5)

- ①世に対する防腐剤の役割 → 周りの新鮮さを保つ
- ②味付けをする(塩気を保つ) → 中途半端にならない()
- ③塩であり続けること → キリストに従い続けること

◎まとめ:「信仰者の覚悟」

- ・「わたしの弟子になることはできない」(26、27、33) → つき従うだけでは弟子になれない。
- ・信仰者の持つべき覚悟とは → 神の前に「捨てる」ことは、最終的に「受ける」ことである。
- ・聞く耳のある者は聞きなさい → 弟子になることを求め、完成を目指して主とともに歩む。